

□議員名：藤岡 修美

1 文化によるまちづくりについて

論点	平成24年度から、山陽小野田市文化振興ビジョンにより取り組んできた本市の文化政策の現状と課題は何か。
回答	市民が気軽に文化芸術に触れることができる鑑賞機会の充実、また、市民による文化芸術活動の活発化につなげるための担い手の育成支援、そして文化会館の位置づけを明確にし、施設老朽化に伴うハード整備の必要性から、拠点施設の在り方が課題である。

論点	今年4月に策定された山陽小野田市文化芸術振興ビジョンでは、その課題にどのように取り組んでいくのか。
回答	課題や実情に即した文化芸術の推進を具体化するために四つの基本目標を掲げ、その目標に基づく施策を着実に実行していくため、今年度アクションプランの策定を予定している。計画的に各版の施策を実施しながら、文化芸術の振興に取り組んでいく。

論点	山陽小野田市文化芸術振興ビジョンによる文化芸術振興の推進体制と進行管理についてどう考えているか。
回答	文化芸術振興の政策形成は、庁内組織として市民部文化スポーツ推進課が担い、計画推進の中核となる推進組織についても調査研究を重ねながら、推進体制の整備充実に取り組んでいく。進行管理については、文化によるまちづくり推進委員会において検証する。

論点	文化芸術活動を通して山口東京理科大生の創造性や表現力を高めるための取組について、具体的に説明を求める。
回答	大学を会場としてのアウトリーチ事業を実施する。また大学と協働して文化芸術事業を展開していく。そして、若い世代を巻き込んだ文化芸術の振興が進んでいくと良いと考えている。

論点	未来を担う子供たちが文化芸術に触れることの大切さについて、市長はどのように考えているか。
----	--

回答	子供たちについては、小さい頃から幅広い文化芸術に触れることで豊かな創造性や感性などが育まれ、生きる喜びを見いだせる力を身に付けることにつながることから、教育的意義からも特に大切だと考えている。
----	--

## 2 スポーツによるまちづくりについて

論点	令和5年度に向けて、中学校の運動部活動の地域移行について検討が進められているが、本市の取組状況はどうか。
回答	国の検討会議や山口県部活動改革推進協議会の状況を学校教育課、文化スポーツ推進課で情報共有しながら検討を進め、予想される本市の課題について協議するために、今年の3月に第1回運動部活動地域移行推進委員会を開催した。

論点	地域や学校によって状況が異なる中、運動部活動の地域移行を進めるためにはどのような方策が考えられるか。
回答	中学校生徒のスポーツ機会の確保という観点だけでなく、地域住民にとってもより良い地域スポーツ環境となることを目指す必要がある。地域や学校間の格差を考慮し、本市の子供たちがスポーツをする機会の確保に当たっては、市全域で考えていく必要がある。

論点	運動部活動を地域に移行する際の受け皿となる団体や組織についてどのように考えているか。
回答	スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブが受け皿として考えられる。また学校を活動拠点として運動部活動を行う場合は、体育協会や各競技団体を通じて指導者を確保し、各学校へ派遣するということが考えられる。

論点	地域における運動部活動の指導者をどのように確保、育成していくのか。
回答	体育協会やスポーツ少年団を通じて指導者確保につながるアンケートの実施を早急に行う。その上で、子供たちの指導に必要な資格を取得する場を提供し、県や国、競技団体が行う研修への参加を促すことで人材育成を図る必要があると考えている。